

EWI と PC/Mac の徹底使いこなしガイド

この章では、MPC Beats を使って自分の演奏を録音する方法を紹介します。

録音にはオーディオ録音と演奏情報を記録する MIDI 録音の 2 種類があります。オーディオ録音の場合にはオーディオインターフェースを使用します。MIDI 録音の場合には EWI Solo、EWI5000 などの USB MIDI 対応の機器では USB 接続、EWI4000s のような USB 端子を搭載していない機種は MIDI インターフェースを使って接続します。

自分の演奏を録音する

15-1 オーディオ録音と MIDI 録音の違い

15-2 MIDI 録音の方法

15-3 オーディオ録音の方法

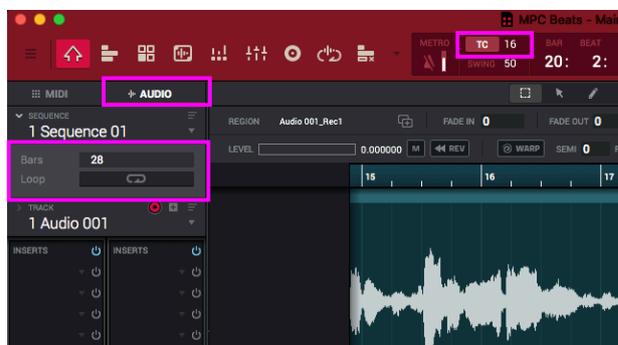
15-4 曲データとして保存する方法

15-1 オーディオ録音と MIDI 録音の違い

オーディオ録音の場合、出ている音をそのまま音声データとして記録する方法です。一方で、MIDI 録音の場合は演奏情報を記録しているので録音後の音色の変更はもちろんのこと、ソフトウェア上で自分の演奏の音程や長さ、強弱などを視覚的に確認したり、修正することができます。

エフェクターに関しては、オーディオ、MIDI どちらでも使用しながら録音をすることができます。オーディオ録音の場合には、エフェクトがかかった状態の音声を記録する方法と楽器の音のみを記録して、後からエフェクトをかける方法があります。録音後に編集ができるので楽器の音のみを記録して後からエフェクトをかける方法がオススメです。

MPC Beats では、オーディオと MIDI のタブがあるので、録音方法に応じて切り替えます。また、録音の初期設定でループ、小節数、タイムコレクト（クオンタイズ）が設定されているので変更します。ループとは、設定された長さで繰り返し再生、録音を行う設定です。タイムコレクトは、設定した音符のタイミングに合わせて演奏を自動的に修正する機能です。ここではループ、タイムコレクト共に解除します。



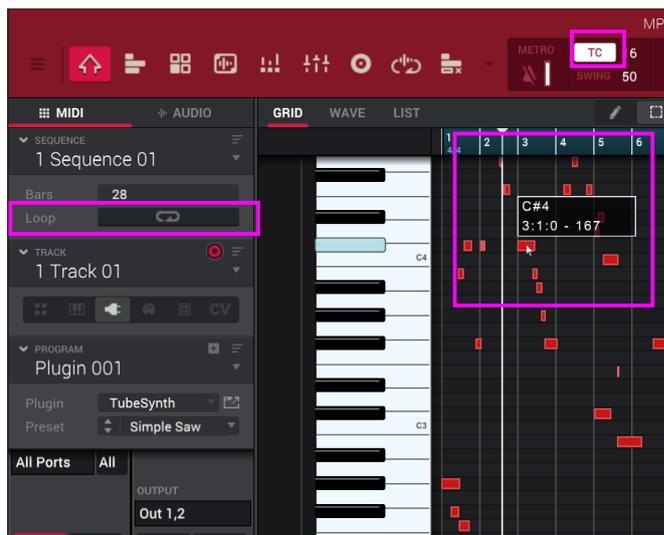
▲オーディオ（左上）オーディオタブ（左中）小節数・ループ設定（右上）タイムコレクト



▲MIDI（左）MIDI タブ（右）ピアノロールと呼ばれ、音程や長さなどが確認できます。

15-2 MIDI 録音の方法

これまで使用してきた Tube Synth を使って MIDI 録音を行います。ループとタイムコレクトをオフにして、録音ボタンを押すと録音がスタートします。録音後ピアノロール画面で自分の演奏が確認できます。マウスを使って音程、長さ、強弱の変更など自分の演奏を編集することも可能です。また、自分の演奏をききながら、エフェクターのかかり具合や設定を調節することもできます。



▲ ピアノロール画面で演奏情報を編集可能

15-3 オーディオ録音の方法

オーディオ・インターフェースを使用します。EWI との接続方法は第 10 章で解説していますのでそちらをご覧ください。オーディオを録音する場合には、入力チャンネルの設定、入力レベルの調整などをする必要があります。まず EWI を入力しているオーディオ・インターフェースの入力レベルがクリップ（音割れ）しないよう入力レベルの調整をオーディオ・インターフェースで行います。入力レベルの調整ができたなら右の図を参考に MPC Beats の入力チャンネルと音量を調整し、録音ボタンを押すと録音がスタートします。



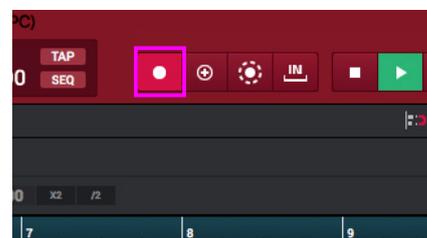
▲ 録音チャンネル設定

<設定のポイント>

ループはオフにする。

オーディオインプットを設定する。

録音待機状態（赤点灯）にする



▲ 録音ボタン

15-4 曲をデータとして保存する

録音した曲データを楽曲ファイルにすると PC やスマートフォンで聴いたり、友人と共有することができます。この作業は「書き出し」と呼ばれ、MPC Beats では MP3 や Wav 形式などの音声ファイルに書き出しをすることができます。【File > Export > As Audio Mixdown...】で右の図のウィンドウを表示させ、楽曲データの詳細を決めます。Audio Length で開始と終了の小節 (Start bar/End bar) を設定。演奏にリバーブの余韻などがある場合 Audio Tail で終了小節の後に指定した秒数を書き出し範囲含む設定ができます。CD クオリティーでの書き出しをする場合には File format : wav、Bit depth : 16、Sample rate : 44.1kHz を選択してください。



▲ オーディオミックスダウン（書き出し）設定